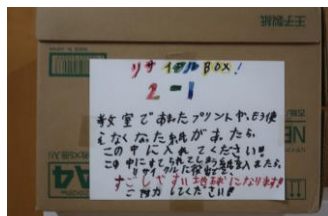


令和6年度 杜の都のエコ・スクール活動報告書

学校番号	21	学校名	仙台市立岩切小学校	校長名	佐々木 宏
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 テーマ「身近な環境について考えよう」



2 取組の紹介

○各学年の活動

4年生は、社会の授業の一環として、清掃工場・浄水場について学習をしました。校外学習で浄水場を見学した際に、水の浄化の過程を見て、たくさんの人がかかわっており、生活に欠かせないもので、大切にしようという意識が芽生えました。

6年生は、昼清掃の時間にゴミ袋をもって全校の各クラスを回り、ごみの回収を行い、校内の環境美化に努めました。また、家庭科で環境について学習し、学校生活でも節電や節水を心掛ける姿が見られました。

○環境・緑化委員会の活動

環境・緑化委員会では、花壇の整備、水やり、草取り、苗植えなど校内緑化活動に取り組みました。

古紙回収では、各クラスに「リサイクルボックス」を設置し、モノクロ、カラー紙に分ける分別回収を行いました。「リサイクルボックス」には、環境・緑化委員会の児童が作成したポスターを貼り付け、リサイクル活動の取り組みを啓発しており、資源を大切にすることについて考えるきっかけとなりました。

○児童会の活動

児童会で計画した若竹まつりでは、各クラスの催し物をする際に、できるだけごみを出さないこと、廃棄する段ボールはガムテープをはがしてリサイクルに出すことなどを代表委員会で取り決め、全校で環境問題を意識して活動することができました。

○学校全体での活動

各教室にごみ箱を2つずつ設置し、可燃ごみとプラスチックごみを分別しています。

3 取組の成果（児童生徒の変容）

様々な活動を通して、ごみの分別や節電、節水、緑化など環境問題にも興味関心を持ち、身近なものとして捉え、一人一人が取り組めるようにしています。また、委員会を中心としてエコ活動への取組を継続してきたことで、資源を大切にしようとする意識が高まってきました。各クラスで意欲的にリサイクルに取り組む児童も増えてきています。これからも全校児童が身近な環境やエコを意識して取り組むことができるよう活動を継続していきます。